

ヘロデによる迫害

使徒言行録 12 : 1~19

2019. 5. 12

熊取教会

5 ¹ そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、² ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。³ そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。⁴ ヘロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出すつもりであった。⁵ こうして、ペトロは牢に入れられていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげられていた。⁶ ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。⁷ すると、主の天使がそばに立ち、
10 光が牢の中を照らした。天使はペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がりなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。⁸ 天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を着て、ついて来なさい」と言った。⁹ それで、ペトロは外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実のこととは思われなかった。幻を見ているのだと思った。¹⁰ 第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、ある通りを進んで行くと、急に天使は離れ去った。¹¹ ペトロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分かった。主
15 が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救い出してくださったのだ。」¹² こう分かれるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。¹³ 門の戸をたたくと、ロデという女中が取り次ぎに出て来た。¹⁴ ペトロの声だと分かると、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。¹⁵ 人々は、「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデは、本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守る天使だろう」と言い出した。¹⁶ しかし、ペトロは戸をたたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペ
20 トロがいたので非常に驚いた。¹⁷ ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、「このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい」と言った。そして、そこを出てほかの所へ行った。¹⁸ 夜が明けると、兵士たちの間で、ペトロはいったいどうなったのだろうと、大騒ぎになった。¹⁹ ヘロデはペトロを捜しても見つからないので、番兵たちを取り調べたうえで死刑にするように命じ、ユダヤからカイサリアに下って、そこに滞在していた。

25 【はじめに】

使徒言行録を読み進んでいます。今日から12章。12章はヘロデ王の記事です。使徒言行録を書いたルカは、出来事を、年月の順ではなく、事柄ごとに整理して記しています。先週終わった11章は、アンティオキア教会についての記録でした。アンティオキア教会は、パウロを送り出した教会であり、古代教会の中で大変大切な働きをしたことが記されていきました。11章の終わりはユ
30 ダヤ地方の飢饉が記されています。これはおそらく紀元46年から48年ごろのこと。一方、きょうの記事は少し前の、紀元40年に遡ります。

【ヘロデ王朝】

今日は、ヘロデ王の迫害についての記事です。聖書に記されているヘロデ王は三人います。初代がヘロデ大王。イエス様の誕生物語に出てくるのが、このヘロデ大王です。在位は紀元前4年まで。その後を、二代目ヘロデ・アンティパスが継ぎました。この王の在位期間は、紀元前4年から紀元39年まで。このヘロデ・アンティパスが、洗礼者ヨハネを牢獄に閉じ込め、イエス様の裁判に立ち会ったヘロデ王です。そして、今日登場するのは三代目、ヘロデ・アグリッパ。在位期間は紀元37年~44年。

【ヤコブの剣難】

きょうの聖書はこう始まっています。¹そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、²ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。

ヨハネの兄弟ヤコブが殺されたのは、紀元40年。11章の終わりよりおよそ七年前です。その頃、教会に対する迫害は、いつもありました。教会がはじまったばかりの頃、最初にペトロとヨハネが、捕らえられ、イエスの名によって語るな、と命じられました。それからステファノが殺されるまで、しばしば迫害がありました。そして、ステファノが裁判で死刑とされ石で打ち殺されてから、大迫害が始まりました。人々はユダヤとサマリアの全土に散らされてゆきました。ただ、使徒たちはエルサレムに残っておりまして。彼らが律法に従っていることが認められていたのでありましよう。

しかし、今日のところで、今までのように、宗教関係者ではなく、政治権力者であるヘロデ王が、とうとう使徒に手を伸ばしました。12使徒の代表の一人、ヤコブを殺した。ヤコブはもとはガリラヤ湖の漁師。彼は「雷の子」とあだ名がつくほど激しい性格の持ち主でした。そのヤコブが切り殺されました。裏切り者としての処刑の形式の様です。伝説によれば、ヤコブは、自分を訴えた者を回心させ、一緒に殉教したということです。ヤコブが殺されたことを聞いて、ユダヤ人たちが喜びました。彼らにとって、イエスの弟子達は目障りだったにちがいません。

³そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。⁴ヘロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出すつもりであった。

過越しの祭りは一日だけ、除酵祭は七日間。日が重なっています。イエス様が十字架で殺されたのは過ぎ越しの祭りでした。ペトロもイエス様と同じ過ぎ越しの祭りに、その慰みとして、死刑になるはずでした。ペトロを祭りのさらし者にして、人々の人気を得る。そのために、ペトロは捕らえられ、牢獄でものものしく警護されていました。警護の兵士は四人一組、四交代制。うち、二人はペトロと鎖で繋がれている。

ペトロが牢に入っている間、弟子達は集まって、彼のために熱心な祈りがなされていました。ところが、ペトロが死刑のために引き出される日の前夜、彼は、み使いによって、解放されました。ペトロ自身何がおきたのか分からない間に、鎖がほどけた。み使いの命じるままに、起き上がり、帯をしめ、履物をはいて、外に出ました。鉄の門が開いた。このような牢獄脱出はペトロにとって、二度目の経験ですが、彼は途中まで、何か夢を見ているようであった、とあります。自分のしていることが、何か遠いところで起きているような感覚だったのでありましよう。途中で気づいたペトロは、このことが神のなさったことだと理解しました。自分を解き放ってくれたのは、天使だったのだと。神がまだ、自分に求めておられることがある。それを考えて、ペトロがしたことは、教会の仲間に、まず無事を知らせること、そして後を託す人を決めることでした。そして仲間の人々に累が及ばないように、彼自身はどこか遠くに身を隠すことでした。

【マルコの母マリアの家】

¹²こう分かったとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。

マルコ福音書には、十字架の夜、一人の不思議な若者が記されています。イエス様が捕まえられたとき、捕手の後を密かについて行った若者です。彼は見つかって、衣をつかまれたけれども、

衣を脱ぎ捨てて裸で逃げて行ったと記されています。この若者が、マルコだろうと考えられています。そのマルコの母親の家に、教会の人々が皆集まっていた。相当に広い家の様です。最後の晩餐がもたれたのも、ペンテコステのできごと、その部屋ではないか、と言われていました。教会のみんなが今どこに集まっているか、ペトロはよく知っていました。その家の門をたたくと、ロデという女中が取次に出てきた。この夜のことは皆の心の中によほど印象強く残っていたに違いありません。女中の名前まで伝えられています。ロデ。ローザ、とも呼ばれる。ギリシャの名で、バラの花。この美しい名前を持った女中の、小さな失敗が、2000年の時を超えて今に伝えられています。ペテロの脱出は、夢の中の物語のようにおぼろですが、彼が家の門を叩いてからのできごとはリアルで具体的です。家の門はカギがかかっていた。ところが、声の主が、ペトロだと分かると、

10 ロデは、喜びのあまり、門をあけもしないで家に駆け込み、「ペトロが家の前に立っている」と告げた。人々は疑います。ロデは譲らない。「それはペトロを守る天使だろう」と言い出した者があるといます。ユダヤの考えでは、ひとりひとりに、守護天使がついている。その守護天使は守護している本人にそっくりで、天での体をもつ、とのことです。

ペトロは門をたたき続けました。そこで、彼らが開けてみると、ペトロが居たので、非常に驚いた。彼らは、ペトロが解き放たれるよう、祈らなかつたのでしょうか。以前、使徒たち皆が牢獄に入れられたとき、天使が救い出してくれたという出来事があった。あのときのように、ペトロが救われるように、と祈らなかつたはずはありません。それなのに、門の外にペトロが立っているのを見て、非常に驚いた。とあります。神様は私達の祈りを待っておられる。それなのに、私たちは、臆病です。自分の罪を知っているので、神様の前に幼子のように出て行くことができません。しかし、神は私達が思ってもいないような形で祈りを聞いて下さる。ペトロの時はまだ来ていませんでした。彼にはまだ神が予定していた仕事が残っていました。神が祈りを聞くために待っておられる。そのことを、私達は祈りながらも信じられない。心の奥で「無理だろう。」と思いながら祈る。なんと信仰の薄い者よ、とイエス様に言われるに違いありません。祈り続け、そして最後を「御心のままに」と主の憐みに委ねたいとおもいます。

【ペトロの命令】

17 ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、「このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい」と言った。そして、そこを出てほかの所へ行った。

ヤコブとは、主イエスの兄弟のヤコブです。このときから、エルサレムの教会をヤコブに託したのでありましょう。しかし、もともとは、イエス様の兄弟たちはイエス様のなさっていたことに批判的でした。マタイ、マルコ、ルカによる福音書には、兄弟たちが、母マリアと一緒に、イエス様の身許を引取にペトロの家に来ています。家族のだれも、イエス様のことを信じていません。福音書を見る限り、イエス様の兄弟は弟子となっていない。けれども、ヤコブは使徒言行録の後半で、イエス様の弟子として歩んでいます。コリント第一の手紙の15章には、パウロが、復活のイエス様を知った者たちのことを列挙し、そして、7節で「次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、そして最後に、月足らずで生まれたような私にも現れました。」これが教会に伝えられた伝承だ、と言っています。復活のイエスを経験して、主の兄弟ヤコブは教会に加えられ、そして、やがてペトロの後を継いで、教会を託されました。

【教会の新しい歩み】

このあと、ペトロが登場するのは、15章7節です。ちょうど、使徒言行録の半分のところ。教会会議の冒頭、彼は立って発言し、異邦人伝道について考えを促しています。ペトロが使徒言行録に登場する最後です。そして、この、教会会議の結論を宣言するのは、ヤコブです。最も重要な教会会議の冒頭をペトロが話し、結論を主の兄弟ヤコブがのべる。ペトロからヤコブへ。

- 5 結果として、ヘロデの迫害は、教会の前進を促しました。困難に出会う度に、教会は神に祈らざるをえなかった。神に祈らざるを得ない困難の中で、教会は新しい歩みを与えられてゆきました。ヘロデは、自分の勝手な目的をもって教会を迫害したのでありますが、神はヘロデをも用い、その迫害を、教会の新しい一歩、へとつないで下さいました。神とともに歩む困難は、私達を新しい一歩へとつなげてくださる。そのことを心におぼえたいとおもいます。